

○私達は、地域の人々の命と健康を守ります。
 ○私達は、健康なまちづくりをめざします。
 医療や福祉に関する困りごとなど気軽にご相談下さい。



NO. 103
 2020年9月15日号
 発行 舞鶴健康友の会
 舞鶴市上安199-30
 TEL 0773-78-3201
 FAX 0773-78-3202
 発行責任者 迫田 薫

特集
私の75年

終戦の日から

憲法改悪を目標に掲げた安倍さんが辞任されました。

この特集は終戦75周年の節目の年、3人の方に人生を語ってもらいました。また長崎の被爆三世、診療所の森さんに手記をよせていただきました。

私は、3人の方にインタビューをして文字にすることを請け負いましたが、力量不足で本人に大幅な書き直しの手間をかけていただくことになりました。こころよく応じていただいた皆様と、紙面づくりの労を取っていただいた橋本さんに感謝します。この特集はこうしてやっとできあがりました。

みなさん、直接戦争に行つた年代ではありませんが、戦争はその後の人生に色濃く影を落としています。この記事を読まれて共感するところがあれば、大きなエネルギーを注いだこの企画は成功です。読まれたみなさんの感想をお寄せください。
 (迫田)

昭和20年大きな変動の年

【岩見武雄さん】



つい先日までゆきわり草をつくっていたいただいた岩見さんは、昭和10年生まれの84歳。今は長らく勤めた印刷所も退職され、子どもたちの通学の安全を守るボランティア活動をされています。朝は毎日、午後は週3回だそうです。生まれは伊佐津、今は倉谷にお住まいです。

舞鶴空襲の記憶

終戦の年、昭和20年7月29日か30日にかけて舞鶴空襲があった。防空壕に避難して対空砲火の照明弾が爆撃機の遙か下までしか届かなかったことを覚えている。

学童疎開へ

昭和20年7月から、学童集団疎開で竹野郡竹野村のお寺に。8月で終戦になったけれど帰っ

「平和健康まつり」中止のお知らせ

平和健康まつりは、舞鶴健康友の会と舞鶴年金者組合とで実行委員会をつくり、例年秋に行ってききましたが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止を決定しました。

第24回舞鶴平和健康まつり実行委員会

てきたのは10月中旬、小学校4年生だった。中学校卒業の15歳で印刷所に就職した。その頃の食べ物は、農家だったがみんな供出し、毎



疎開先の養国寺

日ぞうすいばかりでひもじい思いをした。その後昭和40年に結婚、二人の子どもに恵まれた。

友の会とのかかわりは、診療所をつくる会で機関紙を出そうという話があり、ゆきわり草が誕生、100号まで編集に携わってもらった。

みんなに一言、「働ける間は働きたい、それが生きてる証明だ」。この言葉をかみしめて、今日も岩見さんは黙々と暑い夏を元気に過ごしております。(S)

北朝鮮からの引き揚げ、子育て

【木戸律子さん】



足が悪く杖を片手にコ罗纳で少なくなつた友の会の行事にきて「私は思ったことすぐ言うから」と笑う木戸さん。昭和10年生まれ86歳、高齢ですが元気いっぱいの青春まつただ中です。

北朝鮮に移住

木戸さんの父は、中郡の片田舎の農家で生まれ、海にあこがれをもっていたそうです。母は宮津生まれ、女学校卒業と同時に結婚、新婚旅行をかねて北朝鮮の元山(げんざん)に移り住みました。父の事業はうまくいき大



【就寝前、故郷の両親へ向って挨拶】
(私の戦争時代100名の一言集より)

きな会社の社長になった。終戦までは何の不自由もなくとても幸せに暮らしていました。7人兄弟、私は6番目。兄は海軍でそこそこの地位にいたようでしたが18年に戦死しました。その後ロシアの参戦、船で上陸、殺人、略奪、銃声、荷物の点検が続いた。初めて戦争に負け、惨めで怖いと知りました。

屋根のない貨車にすし詰め

日本に引き揚げることになりました。



木戸さんの家族(右から3人目前列が木戸さん)

母がくっつくられた大きなリュックサックに服や下着をつめ出発しました。お金は母がリュックの底や着物に縫い込んでおきました。

母が行商をしながら

途中までは屋根のない貨車にすし詰め、子どもが泣くと怒鳴る怖い男の人がいた。赤ちゃんが泣かないよう、乳を飲ませて押しつけて窒息し死亡するという悲劇もありました。鉄道を途中で下ろされ10日ほど夜間に山道を歩き昼間は山の中で寝ました。何も食べられませんでした。やっとの事で38度線の大きな川を渡り北朝鮮に着いた。アメリカ兵がいてDDTという真っ白い消毒剤を頭から足までふりかけられ、京城の収容所に連れて行かれました。その後結婚して二人の子



どもを育てました。今は長男夫婦と同居しています。

健康友の会との出会いは、10年あまり前に岡野さんに勧められたことがきっかけです。周りのみなさんに伝えたいこと、「思いやりがない人。人の悪口をいっぱい言う人」がいるがそれはダメですね。みんなで力を合わせて生きてゆきたいと思いません。

終戦後のひもじさ、 そして気象台へ 【澤田芳夫さん】



澤田芳夫さんは健康友の会の発当初頃からの

世話人さんの一人。昭和7年生まれで88歳。高齢のため世話人は辞められ

たが、元気です。友の会との関わりは、兄さんがつくる会の建設委員で「オマエも入れ」と言われた。兄さんはご存じの矢原浩治さんです。当時組合活動を通して知り合った吉見さんにも声をかけられた。

曳光弾の弾道の記憶

生まれは清道、男ばかり4人の兄弟の末っ子。大工だった父は30歳で死亡、母が4人の子どもを育ててくれた。長男は戦後病気で死亡した。次男は造船所で組合活動をして

いたがレットページでクビになり土建屋を始めた。

終戦の頃の思い出は、7月30日の舞鶴空襲で多くの艦載機が山越えで舞鶴に向けて機銃掃射をするときの曳光弾の弾道

が、非常に鮮やかに印象に残っている。

独学でラジオ等の修理

終戦になって、白鳥トネルに保管されていた軍の無線機器等の物資を焼却したが、焼け残りが多く、それから独学でラジオ等修理するようになった。当時は食料事情も悪く、田舎でも収穫物は供出し配給を受けていた。おやつは柿や桑の実や木の葉等であった。

気象台に就職

高校を卒業して公務員試験を受け、気象台に就職したが給料は安かった。地方公務員の方がだいぶ高かったように記憶している。昭和35年に幼なじみと結婚3人の子どもと、それぞれに2人ずつの孫をもつおじいちゃんです。

あと5年か10年の命？

最近の話、医者に検査

の結果を聞きに行くと、どの医者も専門に関係なく「あと5年か10年の命、寿命なのか・ガンなのか」と言われる、寂しい年頃ではある。

みなさんに一言、受診するとき医師に聞かれて困るのが、自分の健康状況を上手に説明できないことです。こんな時、診療所に準備してある「わたしのカルテ」（有料）です。日赤・国病で提示して大変喜ばれました。もっと大勢で利用しましょう。

戦後75年に寄せて

【まいづる協立診療所
被爆三世 森優】

人間ともわからぬ姿

15歳。3年前に亡くなった祖父が被爆した年齢です。8月9日11時2分、長崎市から車で20分ほど



被爆地（長崎）（ジョー・カネル）

の場所にある香焼島でキノコ雲を見た祖父は勤労動員として爆心地近くの工場で働いていた高校生

の兄を捜すため市内へ向かいいます。まる焦げの人、丸太のように膨れ上がった人、人間ともわからぬ姿にされた人たちをかきわけ、見つけた兄は大火傷をおい皮膚がただれ大変ショックを受けたそうです。口数少なかった祖父から詳しく状況を聞くことができなかったことが心残りです。

高校生で活動

三世。私は被爆三世で

8月9日の登校日には被爆体験を聞き、学習や発表も行い「核兵器をなくすことは当然だ」と思っています。行動しなければと焦りを感じた直接の契機は9・11テロ以降、瞬く間に報復戦争が始まり市民を標的にした攻撃の様子をテレビで見たことです。被爆者の「戦争をしてはいけません。核兵器をなくさないといかない」という言葉が現実の課題なのだ実感し、核兵器廃絶のための高校生1万人署名活動や戦争



法反対のデモなどに参加してきました。

核兵器禁止条約の成立

戦後75年。被爆者にとつてどんな年月だったでしょうか。「原爆資料館を訪れてほしい」という声に、ついでに「原爆資料館を訪れた首相が臆面もなく広島・長崎両市での平和祈念式典のスピーチを使いまわすようになるまでたった75年。惨劇を忘れるにはあまりに早すぎます。一方、核兵器廃絶を訴える被爆者の声が世界に届く時間としてみると、かかるとかかっています。未だ1万3400発ある核兵器は存在する以上、使用することが前提です。問題の解決方法として大量に人を殺すという選択肢を何故75年経っても手放せないのでしょうか。しかし希望もあります。2017年に成立した核兵器禁止条約の批准国は44カ国。

大国の圧力に屈せず確実に批准国は増え、発効に必要な50カ国の目前まで迫っています。

サン・テグジュペリの言

サン・テグジュペリは『人間の大地』にこう記しています。「人間であるということは、とりもなおさず責任をもつということだ。人間であるということは、自分には関係がないと思われよう。な不幸な出来事に対して、忸怩たることだ。人間であるということは、自分の僚友が勝ち得た勝利を誇りとすることだ。人間であるということは、自分の石をそこに据えながら、世界の建設に加担していると感じることだ」

自分の石を据える人間でありたい

75年前の戦争や原爆投下。私たちが責任を持つことはできません。が、現在とこれからは明確な責任があります。核兵器禁止条約を成立させた被爆者と市民運動はもちろんだ、人種やLGBTQを理由とした差別に抗い、つづける人々、民主主義を求めて闘う人たち、世界をより良くしようとする世界の中の僚友に連なって自分の石を据える人間でありたいと思います。

俳句

秋雨や崩れしままの防空壕
彼岸花村に戦死者十四人
顔しらぬ戦死の叔父や赤とんぼ

齋藤裕靖

河合紀代子

原爆忌父捜しの日今語る
すいとんを知らぬ世代と敗戦日
夏座布団少し控えて部屋の隅

編集後記

◆今回の特集いかがでしたか。私の父は、大正11年生まれ。終戦の時は、23歳。既に他界してはいますが、軍人として、戦地に行った様子を子ども頃の私はよく聞かされました。でも、加害者側の様子はほとんど聞いていません。思い出したくもないし、言いたくもなかったのでしょう。青春の真只中を殺し合いの戦場にいた人生は、どんなだったのかと、推し量るより仕方ありません。◆生きて帰ってくれたからこそ、私が生まれ、子供がおり、孫がいる。亡くなられた方は、どんなにか無念だったことでしょうか。この思いをしつかりと受け継がねばと思います。(HS)

インフルエンザ予防接種
500円割引券配布
今回、割引券を同封しています。
ご活用いただき、インフルエンザの予防をしましょう!